

寸御難澁とお見うけ申した。

歸りの電車は何時だったか、元より時計なしでたしかならず、だが何でもY君が六時前とか云ふたのをチラリと聞いた。

淡い灰色に暮れてゆく夕やみにキラ／＼と光る星のやうな電燈にそふて、車は南に流るゝやう梅田へ着いたのは何時だったか

## スケッチ

東京 秋

葉

日があたつたかと思ふとかけるいやな天氣だ、同行四人、曰くY君、曰くT君、曰くA君、曰く僕、但し僕と云ふ名ぢやない、僕だ、A君盛んにシャベリ散らす、談笑又談笑、ずん／＼歩けばかりだ、田端に來ると、パット開けた田野、筑波はかすかだ、火花が上る、麥は黄ばむてゐる、長閑かな、のむびりとした、いつ見ても好いあきない景色だ。歩きつかれて三脚をすへたのは、それから一時間ゆつくりすぎて後だった、今まで雲雀のやうにさへずつた四人も、散兵線を張つたよになつてスケッチを始めた。空がドンヨリしてきた、變化のないつまらないのを一ツやつた。遠くに一帶の森、それから屋根のつきき、麥畑が廣がつて近景は茄子の花が真さかりだ。Y君印象派だつて、無暗に赤、黄、青をベタ／＼ぬりつけてゐる。一枚やつつけて、つまらなさそうにバタ／＼箱にしまひ込む。まだ早やいからテニスをやらうつてボプラ倶楽部に行く、誰れもゐない、すぐ倉田先生がお出になる、Y君の下手には驚くば

かり、第一ラケットに球があたれば上の部、少しつかれた頃中川先生がお出になる、O君S君四人ばかりドヤ／＼來る、吉田先生も藤井先生もお出になる、夢中になつてやつてゐるうちに球が見えなくなつたので止した。しばらくやらないでゐたので腕や足が痛む、腹がへる、上野公園に來た時は歩くのもいやになつた。

## 失敗記

大阪 洗 帆 生

旅に持物モチモノが多かつたので、三脚を持參しなかつた、處が翌日寫生に行つた、暑いので神社の森の中へ入つて神前の銀杏の木を寫さうと場所は定まつたが土の上へどつかりは困ると云つて別に何ぞとそこらを見ると幸ひ宮の軒下に瓦が四五枚あるのそれを、丁度よい場所へ持つて來て腰をかけて始めた。處が半にして足やら腰の邊がイヤにムヅ／＼するので見ると、小さな蟻の奴がゾロ／＼這つて居る、吃驚して立ち瓦を一枚上げて見ると下には幾萬と云ふ蟻軍が地震とても間違へたか玉子を啣て宿替の最中、之には閉口だ、切株のある處は目がさして居るし、手水鉢の方では位置がいかん、百計盡きてスケッチ箱を土の上へ置き自分は吉田先生の眞似をしてやつと晝までに書上たが随分苦しかつた、立上つても脚氣でしびれた足のやう、歸つて見る

と筆洗の中で四五匹蟻の奴が土左衛門になつて居る、これは筆

の先へつけて入れてやつたのだ。

僕は此の日つくく、三脚の効用多きを知つた假令スケッチブック一冊持つて出かける時にも三脚丈は持つて行くものだと思つた、三脚物語の三脚君の威張るのも無理はない、呵々。

### 嚴島水彩畫講習會規定

一開催の主旨及目的 本講習會は故大下藤次郎氏の遺志を承け

開催する者にして墨繪及水彩畫の研究を爲すものとす

一主催者 中國新聞社

一講師 東京 赤城泰舒先生

一委員 東京 藤田紫舟 廣島 影久良雄

一會員 資格 男女を問はず何人も會員たることを得

一課目 墨繪及水彩畫の講話、室内及戶外寫生の實習

一會場 安藝國嚴島公園(室内實習は嚴島小學校)

一會期 八月五日より一週間

一會費 記名料金五十錢(入會申込と同時に徵集するものに

して會員出席せざるときと雖返還せず)會費金壹圓(講

習開始の日徵集す)

一宿泊料 本會指定の旅舎宿料一日五十錢

一申込所 廣島市大手町四丁目中國新聞社

一申込期限 七月十五日まで

一申込書式 (用紙半紙)

入會申込書

何縣何郡何町何村何番地族籍職業

姓 名

生 年 月 日

私儀御社主催嚴島水彩畫講習會へ入會致度候に付

御許可被下度此段相願候也

明治何年何月何日

右姓名印

中國新聞社御中

一會員の携帶すべき器具 墨繪ならば畫學紙、畫板、消ゴム、

小刀、BB印鉛筆、留鋏四個、水彩畫ならばワットマン紙、繪

具箱、畫板、HB鉛筆、水筒、木綿一尺、尙室外寫生用として

三脚床几の類を携帶せられたし繪具は少くとも左の諸種を用

意せられたし

チャイニスホワイト。パイントシンナ。ガンボーヂ、イン

ヂゴ。レモンエロー。オルトラマリン。エローオークル。

コバルト。グリーンリオン。セピア。クリムソンレーキ。又は

カーマイン。ライトレッド 以上

\*

\*

\*

\*

\*

\*